

## 二輪車マフラー



二輪車マフラー製造の榛葉鉄工所（掛川市、榛葉貴博社長）はタイヤの新工場を稼働した。二輪車大手が海外生産を拡大していることに対応し、10億円を投じて新工場を建設。旧工場から移転して生産能力を2倍に増やした。新たに四輪車部品の生産も始める。国内工場の受注が伸び悩む中、タイヤ工場の売上高を5年後に年20億円まで高める。

同社は中・大型二輪車と農業機械のマフラー製造を主力とする。掛川、御前崎市に計3工場を持ち、2008年にバンコク南東部のチョンブリ県の工業団地にリリースで工場を確保した。

主に中型二輪車のマフラーを製造する（タイヤ工場）

# タイヤで生産能力2倍

## 榛葉鉄工所、新工場が稼働 自動車部品も生産開始

稼働から4年たち受注が急増したため、同じ工業団地内に3万平方メートルの土地を購入した。旧工場の3倍にあたる延べ床面積6800平方メートルの新工場を建て、旧工場の設備を移管。今夏フル稼働を始めた。

素材となる鋼板からマフラーを一貫生産する。パイプ曲げ、溶接、プレス、研磨加工に使う設備を増強した。従業員は現在230人で、今後300人程度まで増やす。

日系企業向けに自動車の排気系部品の生産も始める。二輪車、農機のマフラー単品では受注量が増える。二輪車、農機のマフラー単品では受注量が増える。二輪車、農機のマフラー単品では受注量が増える。二輪車、農機のマフラー単品では受注量が増える。

ため、新たな生産設備を導入して稼働率を安定させる。

川崎重工業が二輪車の生

産を拡大している。主力市場の欧米だけでなく、経済成長が進む東南アジアでも富裕層を中心に中型二輪車の販売が好調と

いう。榛葉鉄工所の2012年12月期のタイヤの売上高は約10億円。新工場の敷地は余裕があり、「数年

後に受注がさらに拡大すれば、敷地内に工場を増築して生産能力を伸ばす」（榛葉社長）として